

韓国の子どもの遊びと遊びうた

長崎 幹彦

Children's Games and Singing Games in Korea

Mikihiko Nagasaki

はじめに

外国人の子どもやバイリンガルな子どもの在園・在学が多くなってきた。地方都市においても、その数が増えてきているのが肌で感じられる。しかし、現場には、文化意識の違いからくるトラブルがけっこう多いと聞いている。教育する側がその教育理念を、文化の違いの中でどう子どもに伝えていくのかが問われているのではないだろうか。

現在、担当講座の「幼児音楽特別研究」で、マザーグースと日本の遊びやわらべうたについての比較等をとおして幼児教育のあり方について考えているが、このたび、韓国を訪問する機会を得た。

朝鮮半島の文化は、中国のそれと共に、日本文化に最も密接な関係をもっていることは周知のことである。しかし、我々が「近くて遠い国」と言われる韓国について、あるいは、北朝鮮も含めた韓民族について知る機会は、わざわざ求めて行かない限り、テレビの報道をとおしてぐらいであろう。長野市在住の韓民族の人たちの生活ですら、ほとんど知らないのが実情である。比較の範囲を多少なりとも拡大するよい機会ではないかと考えた。

ここでは、今回の訪韓の報告を兼ねて、「子

どもの遊び」、特に「伝承童謡（わらべうた）」とその遊びを中心に、その実情を調査した結果とその考察を述べることにする。なお、韓国では「わらべうた」のことを「伝来童謡」と言っているが、ここでは、日本国内で通常使われている「伝承童謡」に統一した。

1. 調査内容

(1) 幼稚園・小学校の訪問

今回の調査はソウル市内だけであった。日本の子どもたちの遊びが街から姿を消して久しいが、ソウル市も子どもたちが屋外で遊ぶような状況にはない。調査に同伴してくれた漢陽女子専門大学の通訳の学生の話でも、状況は年々悪化していて自分たちがした遊びを見かけることもほとんどなくなってしまった、生活も塾通い等で忙しく部屋でテレビゲームをするのが普通になってしまった、とのことであった。露地裏でバドミントンやローラースケート等をしている小学生の姿をわずかに見受けた程度で、幼児の遊ぶ姿はまったくなかった。ただし、地方の街の状況を確かめることはできなかった。

また、漢陽女子専門大学の柳吉東先生のご

配慮により、2つの幼稚園と1つの小学校を訪問し、子どもの生活を見学・観察することができた。

幼稚園に関しては、環境設定も教育内容も日本のそれとまったく変わることがなかった。ひとつはソウル市内のごく普通の園で、3階半建ての園舎は狭い敷地に隣の家と接して建たっていて、園庭は猫の額ほどしかないという状況で、アスレチック風の遊具が屋上に備えられ、地下にホール、1階は事務・職員室、2・3階が教室、4階は教室と屋上が全体の遊び場、という設定になっていた。

もうひとつの幼稚園はソウル郊外の住宅地に、小・中・高等学校と同じキャンパス内に併設されていた。園長先生が漢陽女子専門大学幼児教育科で兼任講師をされている関係から、快く見せていただくことになった。園舎は大きく、ゆったりとした間取りで教室内も余裕のある作りであった。中流以上の家庭の子どもが多く、全体的におっとりした感じの子どもが多かった。いかにも田舎から出てきたという感じのおばあさんが、孫のために園に小鳥を持参したところに行き合わせた。どこの国も親族の情愛は同じである。

教材教具に関しては、ソウル市内で最もよく整備されているとのことで、大きな資料室にきれいに整理されていた。聞くところでは、近々、この園の教材教具をソウル市内全域から利用可能とするためのデータベース化が図られるとのことであった。

どちらの園も、夏休み明け直後ということで、主活動で休み中の楽しかった思い出を絵に描いたり、粘土で製作するといった内容であった。日本とまったく同じ折り紙も使われていた。自由遊びは、時間の関係で、残念ながら見るができなかった。

小学校は、やはりソウル郊外の低所得家庭の多い地域の公立学校を訪ね、1年生と接することができた。筆者が伝承童謡に関心を持っているということで、子どもたちがいくつかの伝承遊びをやってみせてくれた。それが、過去に授業で取り扱われたものなのか、日常生活の中で自然に身についたものなのかはよくわからなかったが、1年生らしい活発さと無邪気に遊ぶ雰囲気からは、人に見せるために特別に準備されたものではない、身についた自然さが感じられた。

(2) 漢陽女子専門大学幼児教育科

漢陽女子専門大学の広いキャンパスの一部にあり、校舎は他の学科と階を分け合った形であった。創科されて2・3年である。学科長の先生はアメリカでモンテッソーリ教育法を学んでこられたとのことで、教材・教具がとてよく準備されきれいに整理された広いプレイルームがあった。その他の施設は、ピアノ練習室が大きなウェートを占めており、規模も本学と似た感じであった。学長先生と面会した折には、今後、幼児教育科も交流したらどうだろうか、といった話題が出された。

(3) 伝承童謡と遊び

漢陽女子専門大学幼児教育科の学科長先生との話からも、訪問した各幼稚園の先生方の話からも、伝承童謡と遊びについてはソウル市内の「韓国子供育英会」からの出版物がもっとも詳しく正確でよいと聴いて訪ねてみた。社団法人「韓国子供育英会」は、日本の教科書出版社のような雰囲気、幼小中学校の教科書や参考資料を編集・出版する他、研究者に対しては補助金なども出しているとのことであった。聴いたとおりの貴重な資料をいく

つか入手することができた。この出版物は、では、その中からいくつかの曲について、日本からの発注は受けていないとのことであ日本のわらべうたやマザーグース等と比較してあった。その他に、市内の書店で現代の童謡やみたい。伝承童謡に関する研究書籍を入手した。ここ

- * ハングルはそのままでは読みにくいので、辞書と演奏テープを参考にしながら、実際に発音しているまゝを掲載した。ただし、印刷の関係で適切な発音記号がないため、全ての発音に対応できていない。なお、細かな発音変化は、矢ヶ崎誠治教授と本学でハングル講座を担当されている富岡聖子先生にカタカナ表記化いただいた。
- * 比較のため、筆者の拙訳を富岡先生に修正をいただき掲載した。なお、詩の感じからあえて異訳を取り入れた部分があることをお許しいただきたい。
- * 日本のわらべうたは、長野県内のものを中心に採用した。

1. 私の家へ なぜ来たの



우 리 집 에 왜 왔 니 왜 왔 니 왜 왔 니
 꽃 찾 으 러 왔 단 다 왔 단 다 왔 단 다
 무 슌 꽃 을 찾 으 러 왔 느 냐 왔 느 냐
 은 지 꽃 을 찾 으 러 왔 단 다 왔 단 다

(가위, 바위, 보)

グループ1：ウリチベ ウェーワンニ ウェーワンニ ウェーワンニ
 그룹2：코ッチャ츄로 왓탕다 왓탕다 왓탕다
 그룹1：무스콘츄르 챗쥬로 윈뉴냐 윈뉴냐
 그룹2：웅지코츄르 챗쥬로 왓탕다 왓탕다
 카위 바위 보

グループ1：私の家へ なぜ来たの なぜ来たの なぜ来たの

그룹2：花を探しに 来たんだよ 来たんだよ 来たんだよ

그룹1：何の花探しに 来たの 来たの 来たの

그룹2：銀の花探しに 来たんだよ 来たんだよ 来たんだよ

はさみ いし かみ (筆者注：ジャンケンポン)

<参考1> **はないちもんめ**(楽譜は省略)

그룹1：勝ってうれしい はないちもんめ

- グループ2 : 負けてくやしい はないちもんめ
 グループ1 : となりの おばさん ちょっとおいで
 グループ2 : 鬼が こわくて いかれない
 グループ1 : おかま かぶって ちょっとおいで
 グループ2 : それでも こわくて いかれない
 グループ1 : あのこが ほしい
 グループ2 : あのこじゃ わからん
 グループ1 : このこが ほしい
 グループ2 : このこじゃ わからん
 グループ1 : そうだんしょう そうしょう (互いに誰を出すか相談して決める)
 グループ1 : ◇◇ちゃんがほしい
 グループ2 : ○○ちゃんがほしい
 (◇◇と○○ちゃんが前へ出てきて) 「ジャン ケン ポン」
 (負けた子は勝った子のグループに移る。以下くりかえし)

<参考2> **Polly put the kettle on**(ポリー やかんをかけてね)

Pol - ly put the ket - tle on, Pol - ly put the ket - tle on,
 Pol - ly put the ket - tle on, We'll all have tea.
 Su - key take it off a - gain, Su - key take it off a - gain,
 Su - key take it off a - gain, They've all gone a - way.

Polly put the kettle on	ポリー やかんをかけてね
Polly put the kettle on	ポリー やかんをかけてね
Polly put the kettle on	ポリー やかんをかけてね
We'll all have tea.	みんなおやつにいらっしゃい
Sukey take it off again,	スーキー やかんをおろしてね

Sukey take it off again,	スーキー やかんをおろしてね
Sukey take it off again,	スーキー やかんをおろしてね
They' ve all gone away.	みんなさよならもういない

2. 狐や 狐や 何してる

鬼ごっこである。地面に寝ている狐(鬼)を周辺で囃したてて起こし、なおからかって追いか
けさせる。最後の「生きてるよ！」で鬼は皆を追いかけて捕まえる。



여우야 여우야 뭐하—니 잠잔—다 잠꾸러—기



여우야 여우야 뭐하—니 세수한—다 멧쟁—이



여우야 여우야 뭐하—니 옷입는—다 예쁜—이



여우야 여우야 뭐하—니 밥먹는—다 무슨반—찬



개구리 반—찬 죽었니 살았니 살았다—

ヨウヤ ヨウヤ ムオハニ チャムチャンタ チャムクロギ
 ヨウヤ ヨウヤ ムオハニ セスハンダ モッチェンギ
 ヨウヤ ヨウヤ ムオハニ オンニムヌンダ イェップニ
 ヨウヤ ヨウヤ ムオハニ パンモンヌンダ
 ムスンバンチャン ケグリバンチャン
 チュゴツニ サラッニ サラッタ

皆：狐よ 狐よ 何してる	狐：寝てるの	皆：朝寝ぼう
皆：狐よ 狐よ 何してる	狐：顔を洗ってるの	皆：お洒落者

皆：狐よ 狐よ 何してる 狐：服を着てるの 皆：かわいこちゃん
 皆：狐よ 狐よ 何してる 狐：ご飯をたべてるの 皆：おかずはなあに
 皆：狐よ 狐よ 何してる 狐：蛙のおかず 皆：死んでるの 生きてるの
 狐：生きてるよ！

<参考3> 山越し川越し(飯田市) [つかまえ鬼]

♩ = 約 88

飯 田 市
採譜 明田 等

やまこし かおこし こんやの おこんさ あそびに おいなんよ

まだねんね しとるに え ら い おねぼうだ なむし
 いまかおを あらとるに え ら い おしゃれだ なむし
 いまごはん たべとるに え ら い おおめしくいた なむし

皆：山越し川越し こんやのおこんさ 遊びに おいなんよ
 鬼：まだねんねしとるに 皆：えらい おねぼうだなむし
 皆：山越し川越し こんやのおこんさ 遊びに おいなんよ
 鬼：いま 顔を洗つとるに 皆：えらい おしゃれだなむし
 皆：山越し川越し こんやのおこんさ 遊びに おいなんよ
 鬼：いま ご飯食べとるに 皆：えらい 大飯食いだなむし
 (以下、即興で問答唱を繰り返す)

<参考4> 山のギコさん(京都府与謝野郡伊根町) [つかまえ鬼]

皆：山のギコさん 遊びに来きゃーな
 鬼：まだねとるわな 皆：そんなら帰ろ
 皆：山のギコさん 遊びに来きゃーな
 鬼：まだ飯くうとるわな
 皆：飯のおかずはなんだ
 鬼：蛇
 皆：死たんか生きたんか
 鬼：生きたんだ
 皆：ワーッ(逃げる)

狐あそび。鬼遊びの変形と考えられる。福島では「こんこんさま」と呼び、「いま流しで骨を

かじっていた」、「尻尾が見える」などとも唄われている。古くは江戸期の子どもの遊びを記した本にも記載されている。京都、徳島、愛媛等でも唄われていることから、全国的な遊びと考えられる。

3. ちびさん ちびさん

縄跳びの歌。「くまさんくまさん」や「おつぎおはいり」等と同じように、縄を跳びながら様々な動作をする。



꼬마 야꼬마 야 뒤 로돌아 라 꼬마 야 꼬마 야 한 발을들어 라



꼬마 야 꼬마 야 땅 을 짚어라 꼬 마야꼬마야 손 백을 쳐 라



꼬마 야꼬마야 만세를불러라 꼬마 야 꼬마야 잘 — 가 거라

コマヤ	コマヤ	トウイロ	トララ
コマヤ	コマヤ	ハンバルル	トゥロラ
コマヤ	コマヤ	タングル	チポラ
コマヤ	コマヤ	ソンピョグル	チョラ
コマヤ	コマヤ	マセルル	プロラ
コマヤ	コマヤ	チャール	カゴラ

ちびさん	ちびさん	回れ右
ちびさん	ちびさん	片足あげて
ちびさん	ちびさん	手をついて
ちびさん	ちびさん	手をたたけ
ちびさん	ちびさん	両手をあげて
ちびさん	ちびさん	さようなら

<参考5> くまさん くまさん(松本・北安曇地方)

北安曇郡小谷村
採譜 熊井武
小口てる子

♩=約80

くまさん くまさん まわれみき くまさん くまさん

りょうてをついて くまさん くまさん さようなら
かたあしあけて
かたあしおろし(中略)

くまさん くまさん 回れ右
くまさん くまさん 両手をついて
片足あげて 片足おろし 両手を腰に
両手をおろして 両手を上に 両手を下げて
くまさん くまさん さようなら

<参考6> おつぎおはいり(茅野市)

茅野市
採譜 牛山弘志

♩=約80

お つ ぎ お はいり はいよろしゅう こんにちは

(勝負がつくまでくり返す)

ジャンケン ボイ あいこでしょ あいこでしょ

ま けたおかたは おでなさい さ よ う な ら

おつぎ おはいり
はいよろしゅう こんにちは
じゃんけんぽい(あいこでしょ)
負けたおかたは おでなさい
さようなら

「はいよろしゅう」で二人が向かい合って縄に入り、「こんにちは」で挨拶。負けたものは縄持ちと交代する。

4. 東大門

동동 동대 문을 열 어 라 남남 남대문을 열 어 라

열 두 시 가 되 며 는 문 을 닫 는 다

トンドン トンデームヌル ヨロラ
 ナムナム ナムデームヌル ヨロラ
 ヨルトウシガ テミョヌン
 ムヌル タンヌンダ

トン トン トンデームン(東大門)を 開ける
 ナン ナン ナンデームン(南大門)を 開ける
 12時に になったら
 門しめる

<参考7> とおりゃんせ(楽譜は省略)

とおりゃんせ とおりゃんせ	この子の 七つのお祝に
ここはどこか 細道じゃ	お札をおさめにまいます
天神さまの 細道じゃ	行きはよいよい 帰りは怖い
ちょっと とおしてくだしゃんせ	怖いながらも
ごようのないもの とおしゃせぬ	とおりゃんせ とおりゃんせ

<参考8> London Bridge(対訳は省略)

Lon - don Bridge is bro - ken down, Bro - ken down, bro - ken down,

Lon - don Bridge is bro - ken down, My fair la - dy!

London Bridge is broken down. Build it up with bricks and mortar
 Broken down broken down, Bricks and mortar, bricks and mortar
 London Bridge is broken down, Build it up with bricks and mortar
 My fair Lady. My fair Lady.

Build it up with wood and clay, Bricks and mortar will not stay,
 Wood and clay, wood and clay, Will not stay, will not stay,
 Build it up with wood and clay, Bricks and mortar will not stay,
 My fair Lady. My fair lady.

Wood and clay will wash away, 以下省略
 Wash away, wash away,
 Wood and clay will wash away,
 My fair Lady.

5. しっかり しっかり かくれろや



1. 꼭 꼭 숨 어 라 꼭 꼭 숨 어 라
 2. 꼭 꼭 숨 어 라 꼭 꼭 숨 어 라



1. 텃 밭 에 도 안 된 다 상 추 씨 앓 밟 는 다
 꽃 밭 에 도 안 된 다 꽃 모 종 을 밟 는 다
 울 타 리 도 안 된 다 호 박 순 을 밟 는 다
 2. 종 종 머 리 찾 앓 네 장 독 대 에 숨 었 네
 까 까 머 리 찾 앓 네 방 앓 간 에 숨 었 네
 빨 간 댕 기 찾 앓 네 기 등 뒤 에 숨 었 네

コックコック スモラ コックコック スモラ しっかり しっかり かくれろや
 トッパッテド アンデンダ サンチュシァッ パンヌンダ 菜園はだめよ チシャの苗を踏むぞ
 コッパッテド アンデンダ コンモジョグル パンヌンダ 花壇もだめよ 花の苗を踏むぞ
 ウルタリド アンデンダ ホパクスヌル パンヌンダ 垣根もだめよ かぼちゃの芽を踏むぞ

コックコック スモラ コックコック スモラ しっかり しっかり かくれろや

チョンジョン モリ チャチャンネ チャクトテエ スモンネ 三っ編み頭みつけ 甕台の陰にかくてる
 カカ モリ チャチャンネ バンガカネ スモンネ いが栗頭みつけ 納屋にかくれてる
 パルガン デンギ チャチャンネ キドゥントゥイエ スモンネ 赤いりボンみつけ 柱の後ろにかくれてる

<参考9> **かくれんぼ**(長野市)

♩=約70~90

長野市
採譜 藤沢真司

よ くかくれろ しろねずみ あとからちろちろ めっかるぞ

鬼が目をつむり、ほかの子どもたちは歌いながらかくれる。だんだん声を小さくうたっていく、歌が消えたとき、鬼がさがしにあるく。

6. **数字を解く** [かぞえうた]

하 나 하 면 할 머 니 가	지팡이를 짚 는 다 고 잘 잘 잘
들 一 하 면 두 부 장 수	두 부 를 판 一 다 고 잘 잘 잘
셋 一 하 면 새 색 시 가	거 울 를 본 一 다 고 잘 잘 잘
넷 一 하 면 넷 가 에 서	빨 래 를 빨 一 다 고 잘 잘 잘
다 섯 하 면 다 람 쥐 가	알 밤 을 간 一 다 고 잘 잘 잘
여 섯 하 면 여 학 생 이	공 부 를 한 一 다 고 잘 잘 잘
일 곱 하 면 일 꾀 들 이	나 무 를 베 一 다 고 잘 잘 잘
여 닷 하 면 옛 장 수 가	깨 엿 을 판 一 다 고 잘 잘 잘
아 홉 하 면 아 버 지 가	장 보 러 간 一 다 고 잘 잘 잘
열 一 하 면 열 무 장 수	열 무 를 판 一 다 고 "열무사려!"

ハナ	ハミョン	ハルモニガ	チツパンギルル	チムヌングゴ	チャルチャルチャル
トゥル	ハミョン	トゥブチャンス	トゥブルル	バンーダゴ	チャルチャルチャル
セツ	タミョン	セセクシガ	コウルル	ポンーダゴ	チャルチャルチャル
ネツ	タミョン	ネッカエソ	パルレルル	パンーダゴ	チャルチャルチャル
タソツ	タミョン	タラムヂェイガ	アルバムル	カンーダゴ	チャルチャルチャル
ヨソツ	タミョン	ヨハクセンギ	コンブルル	ハンーダゴ	チャルチャルチャル
イルゴッパ	パミョン	イルクンドウリ	ナムルル	ペンーダゴ	チャルチャルチャル
ヨドル	ハミョン	ヨッチャスガ	ケヨッスル	パンーダゴ	チャルチャルチャル

アホップ パミョン アボジガ チャンボロ カン—ダゴ チャルチャルチャル
 ヨール ハミョン ヨルムジャンス ヨルムルル パン—ダゴ “ヨルムサリョ”

一つなら ばあさんが 杖をつくるとサ チャルチャルチャル
 二つなら 豆腐売りが 豆腐を売るとサ チャルチャルチャル
 三つなら 花嫁が 鏡をみるとサ チャルチャルチャル
 四つなら 川端で 洗濯するとサ チャルチャルチャル
 五つなら リスが 栗の実剥くとサ チャルチャルチャル
 六つなら 女学生が 勉強するとサ チャルチャルチャル
 七つなら 木こりが 木を切るとサ チャルチャルチャル
 八つなら 飴売りが ごま飴売るとサ チャルチャルチャル
 九つなら 父さんが 買物に行くとサ チャルチャルチャル
 十なら 葉大根売りが 葉大根売っているとサ “いかが—”

(注 葉大根の葉をキムチの材料とする。大根そのものは小さい)

<参考9> 一つとや(諏訪市)

♩=約84 諏訪市 採譜 牛山弘志

ひ と つ と や — — ひ — と よ あ け れ ば
 ふ た つ と や — — ふ た ば の ま — つ は
 に ぎ や か で に ぎ や か で お か ざ り
 い ろ よ う て い ろ よ う て さ ん が い
 た て た り ま つ か ざ り — — ま つ か ざ り
 ま — つ は か ず さ や ま — — か ず さ や ま

一つとや ^{ひとよ}一夜明ければ にぎやかで
 お飾り立てたり 松飾り松飾り
 二つとや 二葉の松は 色ようて
^{さんがいまつ}三蓋松は かずさ山かずさ山
 三つとや みなさん子供衆は ^{らく}樂あそび
 はないちこまどと 手まりつく手まりつく
 四つとや ^{よしわらじよろうしゅう}吉原女郎衆は 手まりつく
 手まりの拍子が おもしろやおもしろや
 五つとや いつも変わらぬ 年男

お年をとらずに 嫁をとる嫁をとる
 六つとや むりに結んだ たまずさは
 雨風うけども まだとけぬまだとけぬ
 七つとや 南無阿^な弥^あ陀^み仏^{だぶつ}を 手にそえて
 後生を願いの おじいさまおじいさま
 八つとや やわらよい子じゃ 知恵の子じゃ
 お知恵で育てた お子じゃものお子じゃもの
 九つとや ここへござれよ 姉^{あね}さんよ
 足袋^{たび}や雪駄^{せつた}で ちゃらちゃらとちゃらちゃらと
 十とや 年神さまの お飾りは
 だいしかちくり ほんだわらほんだわら

7. こしまがりばあさん [言葉遊び]

꼬부랑 할머니가 꼬부랑 지팡이를 짚고
 꼬부랑 고갯길을 꼬부랑 넘는데
 꼬부랑 강아지가 꼬부랑 똥을 누니
 꼬부랑 할머니가 꼬부랑 지팡이로
 꼬부랑 강아지를 꼬부랑 때리니
 꼬부랑 강아지가 꼬부랑 껌 꼬부랑 껌
 꼬부랑 껌 껌 꼬부랑 껌 껌

コブラン	ハルモニガ	こしまがり	ばあさんが
コブラン	チパンギルル チッコ	まがり	杖ついて
コブラン	コゲッキルル	まがり	坂を
コブラン	ノムヌンデ	まがり	歩いていく
コブラン	カンガジガ	まがり	犬が
コブラン	トングル ヌニ	まがり	うんちした
コブラン	ハルモニガ	こしまがり	ばあさんが
コブラン	チパンギロ	まがり	杖で
コブラン	カンガジルル	まがり	犬を
コブラン	テリニ	まがり	ぶっ叩く
コブラン	カンガジガ	まがり	犬が
コブラン	ケン	まがり	キャン
コブラン	ケン	まがり	キャン

8. 汽 車 [しりとり唄]

원 승 이 엉덩이는 빨 개 빨간것은 사 과
 사 과 는 맛있 어 맛있는것은바나 나 바나나 는 길 어
 긴것은 기 차 기 차 는 빨 라 빠른것은비 행기
 비 행 기 는 높 아 높은것은 백두산

ウォンスンギ	オンドンギヌン	パルゲ	猿の尻は 赤い
バルガン	ゴスン	サグア	赤いものは リンゴ
サグアヌン	マシッソ		リンゴは うまい
マシンヌン	ゴスン	バナナ	うまいものは バナナ
バナナヌン	キーロ		バナナは 長い
キーン	ゴスン	キチャ	長いものは 汽車
キチャヌン	パルラ		汽車は 速い
パルン	ゴスン	ピヘンギ	速いのは 飛行機
ピヘンギヌン	ノーパ		飛行機は 高い
ノーブン	ゴスン	ペクトウサン	高いのは 白頭山

(筆者注：白頭山は中国国境に接する朝鮮半島でもっとも高い山)

<参考12> **さいなら三角** (新潟県長岡市)

さいなら三角 また来て四角
 四角は豆腐 豆腐は白い
 白いは兎 兎は跳ねる
 跳ねるは蛙 蛙は青い
 青いは柳 柳はゆれる
 ゆれるは幽霊 幽霊は消える

消えるは電気 電気は光る
光るはおやじのはげ頭

2. 考 察

(1) 「私の家へ なぜ来たの」

「子もらい遊び」。同じ遊びである「はないちもんめ」が「鬼」の存在を意識した、どこかに暗さをともなった内容であるのに対し、マザーグースの "Polly put the kettle on" (ポリー やかんをかけてね)と同様明るい感じである。メロディそのものは長音階のようにみえる。いつごろから唄いだされたものであろうか。

(2) 「狐や 狐や 何してる」

日韓両国で、歌詞も遊びもまったく同じ内容である点に注目したい。

日本でも「ことろことろ」のように、平安朝時代からの遊びが息長く残っているということは、日韓交流史の中で、どちらに先に生まれたかわからない遊びがあっても不思議なことではあるまい。日韓併合を経験した韓国では、第二次世界大戦後、日本色を一掃したといわれている。にもかかわらず、このような共通の遊びがあるのはなぜなのだろうか。この曲の発生時期がわからなくては判断できそうもない。

(3) 「ちびさん ちびさん」

“コマヤ”と「くまさん」はどこか発音が似ている気がしないでもない。日韓両国とも、縄跳びは比較的新しい遊びであろう。内容はきわめてよく似ている。今回はこの一曲しか入手できなかったが、日本にはいく種類もの縄とび唄があり、盛んに行なわれていた経過

から、韓国でも同様のことが想像される。

(4) 「東大門」

「関所あそび」。日本では「とおりゃんせ」がこれにあたる。マザーグースの "London Bridge" も同じ種類の遊びであるが、捕まえた子どもを "Gold and Silver" や "Orange and Lemon" で組分けして次の遊びに移っていく発展性を持っているところがやや異なる。

(5) 「しっかり しっかり かくれろや」

かくれんぼ。田舎や下町の風景が目に浮かぶような歌詞である。日本では十(とう)数える、あるいは、参考9のような比較的短い唄の間にかくれるといったように単純な形が多い。この唄のように長い歌詞での遊び方はよくわからないが、隠れるための時間が長く設定できてよいのかもしれない。

(6) 「数字を解く」

かぞえうたは、日本のものをみても、生活の様子がよくあらわれるものようだ。「女学生が勉強する」といった歌詞からみて、それほど古い唄ではなさそうだ。日本の「かぞえうた」には「三蓋松」とか「だいしかちくりほんだわら」といった、現代では本来の意味がよくわからない言葉がでてきて、発生古さがしのばれる。

ハングル詞をみると、日本語でいうと、「ひとつ」→「ひとよ」のように韻をふんでうたわれていることがわかる。

(7) 「こしまがりばあさん」

“コブラン”（曲）という言葉をおもしろおかしく使った「言葉の表現あそび」。日本のわらべうたには、一つの言葉にここまでこだわったものは、いまのところ見当たらない。むしろ、マザーグースの “There was a crooked man” の方がぴったりと当てはまっている。子どもには、「お前のかあちゃん出べそ」のような、遊び心として友達をからかったり、喧嘩のときに相手を「揶揄」する言葉があるが、この言葉遊びは、そんな中から発生してきたのではないだろうか。

(8) 「汽 車」

しりとり唄。しりとりには、最後の言葉そのままとってつなぐものと、言葉の最後の音をとってつなぐものとあるが、これは前者にあてはまる。この唄は、(6)や(7)等とともに、楽しく唄いながら、いつのまにか数字の教え方を覚えたり、言葉の範囲を広げていくのに役立っていると考えられる。

(9) 考察のまとめ

① 日韓両国に、内容までほとんど同じ遊びがいくつもあることが確認された。

日本と韓国の文化が、多くの面で重なっている部分を持っていることは歴史的にも当然のことであろう。それは、言語の面からすでに始まっていると言われている。人の往来によって伝えられたであろうものがあったり、相互に何等かの影響を与えたり受けていることもあろう。宗教等、その国独特の風習に影響される部分はさておき、日常的な遊びには多くの共通点を見出すことができる。旋律の音構成や旋法すら共通点があるように感じられる。狐あそびがどちらに先にあったのか、たまたま同じ遊び

がそれぞれに生まれたのか等はわからない。

また、両国ともに、欧米の影響を感じるものもある。日本にも輸入されたメロディに歌詞をつけ替えて唄っているものがみられるが、「私の家に何しに来たの」や「東大門」は明らかに長音階である。いつ頃、歌われだしたものなのだろうか。「こしまがりばあさん」がマザーグースの影響を受けて成立したかどうかは、今の段階ではわからない。

② 今回は例を掲載できなかったが、日本にはない大きな相違点として、5拍子の曲があることが確認された。これは、言語からくる民族的リズム感の相違であろう。

③ どの民族の唄も、例えば「数字を解く」、「こしまがりばあさん」のように、韻をふんで形の整ったもの、言葉を遊ぶものが多い。

④ 日本の遊び唄には、多く「鬼」が存在するが、韓国やマザーグースでは目立たない。これは、明らかに日本の文化の特質と言える。このためかどうかはわからないが、日本の遊び唄は、元気に遊んでいる姿とほらはらに、言葉そのものにどこか暗いイメージがつきまとう唄があるように感じられる。

⑤ 「かぞえうた」は曲の数が多し。また、アルファベットや「いろは」等、言語の基本になる字を覚える唄も多い。掲載できなかったが、姓（李・金・趙等）を覚える唄などもあった。これは、家系を重んじる韓国の特質であろうか。

3. おわりに

筆者を案内してくれた漢陽女子専門大学日語通訳科の学生は、ソウル市という大都会に育った人たちであったが、自国の「伝承童謡」を数多く知っていた。唄も聞かせてもらった。子どものとき随分遊んだと話してくれた。本学の学生は、これほど知ってはいない。遊びの場が無くなってしまった影響は大きい。

日韓は古い時代から交流があった。日本が文化的に多くの影響を受けていることも、かつて学んでいる。多分多くの共通項があるであろうことも予想していた。が、はじめて出会った韓国の子どもの遊びや遊び唄と日本のそれとの比較から、あらためてその近似性を痛感した、というのが現在の心境である。知っている方からみれば、筆者の勉強不足と言わざるをえない。

多くの民族が世界的に混ざり合っていく状況で、他国に生まれ育ち独自の言語や文化を

知らない人が増えてきている。それぞれの固有の文化やそのアイデンティティが少しずつではあるが薄れてきつつあるのではないか。その意味において、これまで研究してきた「マザーグース」の中の共通する遊びも併記し比較してみたが、あらためて日韓の遊びの共通性と文化的近似性を感じ、心強い気持を抱かずにはいられない。

短い年月ではあったが、幼少時を韓国で過ごした体験を持つ者として、韓国の子どものについてもう少し詳しく知りたいとおもう。今回、筆者の語学力の不足から、訳出に時間がかかってしまい、間に合わなかった曲が多くある。さらに比較を続けたい。また、多少の資料を入手した、韓国の伝承童謡の研究者たちの研究内容についても知りたいと考えている。

世界がこれだけ狭くなってきた昨今、隣人との交流はもっと緊密で暖かでありたい。もう一つの隣国である中国についても知りたいとおもっている。

参考文献

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 「韓国伝承童謡絵本」(カセットテープ付き) | 社団法人 韓国子供育英会 |
| —教師と父母のための手引書— | |
| 「新潟のわらべ歌」 “日本のわらべ歌全集 9下” | 峰村辰典 昭59年 柳原書店 |
| 「長野岐阜のわらべ歌」 “日本のわらべ歌全集 13” | 町田 等他 昭56年 柳原書店 |
| 「京都のわらべ歌」 “日本のわらべ歌全集 15” | 高橋美智子 昭54年 柳原書店 |
| 「保育内容に関する研究」—子どもの遊びについて— | 1996年 清泉女学院短期大学 |
| 「マザーグースとあそぶ本」 百々佑利子 | ラボ教育センター |
| 「マザーグース案内」 藤野紀男 | 1987年 大修館書店 |